



令和7年度静岡県NPOと地域コミュニティとの連携事業モデル創出業務委託

「こども里山学校～アート思考で地域に関わる～」

実施報告書

NPO 法人クロスメディアしまだ

静岡県島田市旗指 74-1

0547 - 39 - 3666

令和7年度

子ども×里山わくわく体験プログラム 秋の部

<実施目的>

事業名	子ども×里山わくわく体験プログラム 秋の部
実施目的	地域を「学びの場」として捉え直す アート思考を通じて子どもたちに創造力と共感力を育む 地域の暮らしに子どもが関わり、相互に育ち合う関係性を構築
日時等	日時:令和7年11月15日(土)~16日(日) 1泊2日 活動場所: Atelier & Guesthouse ヌクリハウス(島田市川根町抜里 930) 対象:小学1~6年生 定員:10名 参加費:5,000円(宿泊、2食、ワークショップ備品、保険加入) 主催:NPO 法人クロスメディアしまだ
内容	<1日目> ■オリエンテーション ・自己紹介 ・プログラム紹介 ■アートハイキング ・抜里エリアのハイキング ・ぼいんぼいん山アートトレイル ・歩きながら、山や茶畑で自分だけの宝物を探そう ■地域アートワークショップ 「地域の人と工作体験」 ※講師:抜里エコポリス(5名) 地域に自生する竹を使い、水てっぽう、竹笛、笹舟、コップ、などを地域の方と一緒に制作。 ■ぼいんぼいん山アート作品作り アートハイキングで見つけた自分だけの宝物を使って、世界に一つだけのアート作品を作ろう キャンバスへ木の実や葉っぱを貼り付けたり、色を付けたりして、自分だけの作品を作り上げた。 ■みんなで夕食 ■入浴&ゲームタイム みんなでカードゲームやボードゲームで楽しいひととき。

<2日目>

■みんなで朝食

■朝のお散歩

気持ちの良い田舎の風景と空気を感じて

■プログラムの振り返り

印象に残ったことなどを絵日記に記す

■解散

参加者数:9名(1名キャンセル)

■参加者名簿

申込人数:17名 ※応募多数により抽選

参加人数:9名

- ・2年生(島田市)
- ・2年生(島田市)
- ・4年生(浜松市)
- ・2年生(浜松市)
- ・4年生(島田市)
- ・4年生(島田市)
- ・1年生(島田市)
- ・3年生(牧之原市)
- ・1年生(牧之原市)

<当日写真>

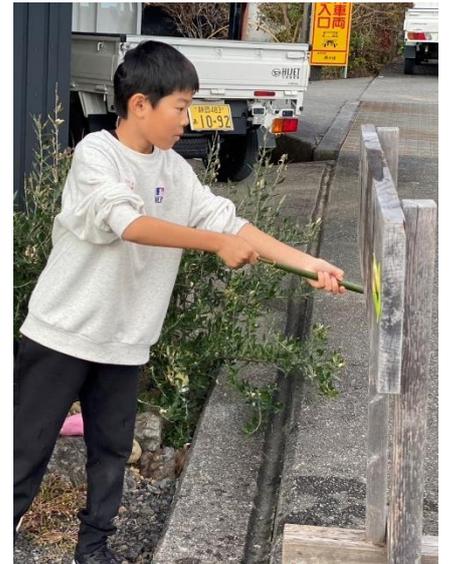
■オリエンテーション



■アートハイキング



■ 地域アートワークショップ



■ぼいんぼいん山アート作品作り



■みんなで夕食



■ゲームタイム



■みんなで朝食



■朝のお散歩



■プログラムの振り返り



■みんなで記念写真



<総評>

今回の「子ども×里山わくわく体験プログラム(秋の部)」では、地域の豊かな自然と、そこに暮らす人々との関わりを通して、子どもたちの創造性・主体性・共感力を育むことを目指した。特に、抜里エコポリスとの協働はプログラムに大きな広がりをもたらし、里山ならではの魅力を等身大の形で子どもたちに届けてくれた。

エコポリスのメンバーによる竹細工の時間では、竹笛・水てっぽう・笹舟など、昔ながらの遊びを子どもと一緒に思い出しながらつくる「共創」の場が生まれた。先生と生徒という一方向の関係ではなく、大人も子どもも自由に楽しみながら学び合う空気が自然と醸成され、竹笛で音が出た瞬間に褒められ、嬉しさから何度も練習し続ける子どもの姿が象徴的であった。里山での創作体験そのものが、地域の大人たちの記憶を呼び起こし、子どもたちと同じ目線で遊ぶきっかけになっていたことも、本プログラムの大きな価値といえる。アートハイキングや夕食作り、自然薯を味わう体験、お茶の実探し、アート作品をめぐる散歩など、二日間の滞在は「地域の暮らしに触れ、地域の人と関わりながら過ごす濃密な時間」となった。ハイキングで見つけた木の実や葉っぱを持ち帰り、自由に作品化するプログラムでは、子どもたちが自ら考え、組み合わせ、表現を探究する姿が多く見られた。これは、自然の中での創造活動が、価値判断や正解探しではなく、子ども自身の“気づき”や“好き”を形にする機会となった証である。

今回の参加者には 様々な特性を持つ児童がおり、学校では得にくい自由度の高い体験が求められていることが保護者との事前の対話からも明らかとなった。一人ひとりの個性に合わせ、安心して力を発揮できる環境づくりを心がけた結果、子どもたちは自分のペースで自然に関わり、地域の人とつながり、安心して活動することができた。保護者からも「自由に羽を伸ばせた」「自立が育っていると感じた」「地域のコミュニティに入る経験ができた」など、多くの前向きな声が寄せられている。

アンケートでは参加者の満足度が非常に高く、多くの子どもが「また参加したい」と話していたことから、この体験が日常では得がたい学びと喜びを提供できたことがうかがえる。地域の多くの大人が子どもを見守り支えることで、安心感と信頼が生まれ、子どもたちがのびのびと挑戦できる環境が成立したことは、本プログラムの大きな成果である。

今後も、地域の資源や人の魅力を最大限に活かしながら、子どもたちの成長と地域の関係づくりが相互に深まっていく「学びの循環」を生み出していきたい。今回の秋の体験は、その確かな一歩となった。

子ども×里山わくわく体験プログラム(秋の部) 保護者アンケート

■参加者の声

・参加者学年

1年生… 1名

2年生…4名

4年生…3名

・参加者居住地

島田市 …5名

牧之原市…2名

浜松市 …2名

Q このプログラムに参加しようと思った理由(複数回答可)

全体的には、「子どもの自立・成長につながると思った」「1泊2日の宿泊体験をさせたかった」回答も多く、中でも「子ども本人の希望」へ多くの保護者から回答いただいた。

次いで「自然の中での体験をさせたかった」「アート体験に魅力を感じた」「集落・地域の人との交流に興味があった」「学校とは違う学びができると思った」「費用が手頃に感じた」「本人が喜びそうだったため」「お友達に誘われたから」への回答があった。

Q 今回のプログラムを何で知りましたか？

・SNS(Instagram・Facebook など)

・友人・知人の紹介

・島田市 LINE

・KADODE OOIGAWA

Q プログラム全体の満足度

「とても満足」へ7割の回答があり、「満足」は3割であった。

「ふつう」「やや不満」「不満」への回答はなかった。

Q 特に良かった内容(複数回答可)

■人気の高い項目

・アートハイキング

・竹工作(竹笛・水鉄砲・笹舟等)

・里山での自由遊び

・地域の方との交流

■その他の希望

- ・夕食づくり
- ・夜の遊び(トランプなど)
- ・宿泊体験(ヌクリハウス)
- ・夜ふかし女子会

Q お子さまの様子や反応について教えてください

- ・楽しかったようで、絶対また行きたいと言っていた。
- ・仲良しのお友達と参加させてもらえることになり、いつもにも増して楽しみにしていました。
- ・多くの刺激を受けてとても楽しかったようです。時間に追われず自由に羽を伸ばせた様子が伺えました。家に帰ってから笛を吹いたり、作製したものを自慢したりしています。
- ・スタッフの方達とのやりとりを話してくれる中で、ほんとに楽しめたことが伝わってきました。
- ・すごく楽しかったみたいで、帰ってからたくさんお話をしてくれました。
- ・次は冬にあるみたいだよ！と今から次回の参加を楽しみにしている様子です。
- ・何日かたっても竹の笛でよく遊んでいます 😊

Q プログラムを通じて感じたお子さまの変化・成長について(自由記述)

- ・親と離れても大丈夫で、むしろ離れている方が生き生きと過ごせるようだった。
- ・普段は朝ごはんをほとんど食べませんが、朝からたくさん食べたようで驚きました。スーパーで自然薯の値段を見て驚いていました。カレーでお腹が一杯になってしまったけど食べれば良かったと言っていました。
- ・知らない同年代の子達と一緒に過ごせたことにより、家族以外と関わることによる新しい発見に気付けたかと思えます。
- ・もともと知らないところでも勝手に友達を作ってきたりとコミュニケーション能力が高い子なので、同世代以外や地域の人とも交流できたことは、娘にとって人との繋がりを大切にする良い経験だったのかなと感じています。

Q 今回の体験が以下の面に影響したと思いますか？(複数回答可)

全ての項目(自立・主体性・創造性・社交性・チャレンジ精神)にて、「思う」と回答が多かった。

Q1 今回の体験が以下の面に影響したと思いますか？その他ありましたら、ご自由にご記入ください

- ・色々なものを作ったので、創造性はあったかなと思う。
- ・親から離れて過ごしたため、自立できたのかなと思う。
- ・地域のコミュニティに入っていくことができるということの理解

Q 今回の「1泊2日」の長さはどう感じましたか？

「ちょうど良かった」「もっと長い方が良い(連泊したい)」が圧倒的に回答数が多く、「日帰りでもよい」または「わからない」については回答0件であった。

Q 今後参加したい日程スタイル(複数回答可)

「通い型(連続講座)」「日帰り型」の回答は少なく、「1泊2日」「2泊3日」「3泊以上の宿泊型(キャンプ・合宿)」の希望が多かった。

Q 今回の参加費(5,000円)はどう感じましたか？

「やや高い」と少数意見あったが、全体的には「とても安い」「ちょうど良い」へ選択が多かった。「高い」への選択はなかった。

Q 今後の適正価格帯(1泊2日の場合)

「4,000～5,000円」あるいは「7,000～10,000円」の意見もある中、「10,000円以上でも内容次第で参加したい。今回このような宿泊体験に参加したため価格帯がどのくらいが妥当か少しわからない部分もありますが、体感的には5000円はありがたい金額だなと感じています。物価高な世の中なので、運営する方もボランティアな状態では続かないと思うので、子供達の笑顔や経験できる場があることを考えると、価格帯が上がっても参加したいとは思いません。」という意見もあった。

Q 今後体験してみたい内容(複数回答可)

「里山のいきもの観察」「農作業・土に触れる体験」「集落の人と協働する体験」「夜の自然(星空・音・焚火)」への回答が多かった。

次いで「アート制作」「長期キャンプ・合宿」「通い型・連続講座」「自由なアート創作」へ回答があった。

Q 送迎・安全管理・スタッフ対応など、気づいたことをお聞かせください

- ・事故や怪我なく過ごせてよかった。
- ・送迎までしていただきありがとうございます
- ・写真もたくさん上げて頂いて安心してお任せできました
- ・多くの地域の方が、子供達をみてくれていたため、非常に安心しました。
- ・送迎していただき、ありがとうございます。
- ・LINEでもたくさんの写真や情報をありがとうございました。どのように過ごしているか、少し気になる親心としては、こまめにLINEで情報提供があったのは安心できました。

Q スタッフ・運営チームへのメッセージがあれば、ぜひお寄せください

- ・このような企画をして頂きありがとうございます。
- ・子ども達にとってもとてもいい経験になりました。
- ・子どもがまた行きたいようですのでまた開催して頂きたいなと思います。
- ・いつもお世話になりありがとうございます。
- ・手厚い対応で色々な体験をさせてもらっていて感謝しています。今回のような企画でも、もし何かできることがあ

ればお手伝いさせていただきますので今後も宜しくお願いします。

- ・冬の部も参加したい
- ・抜里とヌクリハウスがお気に入りの場所のようなのでまた機会があればよろしくお願いします。
- ・子供達がスタッフの方々を信頼して過ごせたことが話を聞いて伝わってきました。
- ・楽しいイベントを設定いただきありがとうございました。
- ・子供がたくさん話をしてくれたり、作ったものを見せてくれたり、遊んでいる姿を見ると、里山わくわく体験がすごく楽しかったことが伝わってきて、行かせてよかったなと感じています。
- ・お忙しい中、計画や準備をしてくださり、本当にありがとうございます。
- ・スタッフや運営チームの皆様のおかげで子供の笑顔が生まれています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な体験をありがとうございました。

令和7年度

子ども×里山わくわく体験プログラム 冬の部

<実施目的>

事業名	子ども×里山わくわく体験プログラム 冬の部
実施目的	地域を「学びの場」として捉え直す アート思考を通じて子どもたちに創造力と共感力を育む 地域の暮らしに子どもが関わり、相互に育ち合う関係性を構築
日時等	日時:令和8年2月21日(土)~22日(日) 1泊2日 活動場所: Atelier & Guesthouse スクリハウス(島田市川根町抜里 930) 対象:小学1~6年生 定員:10名 参加費:5,000円(宿泊、2食、ワークショップ備品、保険加入) 主催:NPO 法人クロスメディアしまだ
内容	<1日目> ■アートハイキング■ 寺山(通称ぼいんぼいん山)はお子さんでも登れるハイキングにぴったりな山。豊かな自然の中を歩いたら、ドングリや木の葉、お花など、自分だけの宝物を見つけよう!今回は、当法人主催芸術祭参加アーティスト佐藤悠さんと一緒にアートハイキング。佐藤さんの新作作品の解説&ガイド付き!その他のアート作品にも出会えるので景色とともに楽しもう! ■ぼいんぼいん山アート作品作り■ 夕食が完成するまでの間に、ぼいんぼいん山で見つけたものを使ってキャンバスに自分だけの作品を思うままに作ってみよう!(持ち帰ります) ■みんなで夕食■ みんなで一緒に食べるご飯はおいしいね! ■ゲームタイム■ 順番にシャワーを浴びている間、カードゲームやボードゲームで遊ぼう! <2日目> ■みんなで朝食■ 好きな具材を選んで、自分のサンドイッチを作って食べよう! ■地域アートワークショップ■ 講師:抜里エコポリス 地域のものを使って、工作にチャレンジ!地元で活躍している「抜里エコポリス」の皆さんが教えてくれるよ!たくさんおしゃべりして交流しよう!

■プログラムの振り返り■

体験したことを思い出して、感じたことを絵日記にしてみよう。(作成後、提出)

参加者数:9名

■参加者名簿

申し込み人数:13名 ※応募多数のため抽選

参加人数:9名

- ・4年生(静岡市)
- ・3年生(静岡市)
- ・1年生(静岡市)
- ・4年生(島田市)
- ・1年生(島田市)
- ・1年生(島田市)
- ・3年生(焼津市)
- ・4年生(焼津市)
- ・2年生(焼津市)

<当日写真>

■アートハイキング



■みんなで夕ご飯



■集落散策



■ 地域アートワークショップ



■みんなで朝食



<総評>

「子ども×里山わくわく体験プログラム(冬の部)」は、前回内容を踏まえ、地域の自然・文化資源と人の関わりをより深く体験できる内容へとブラッシュアップして実施した。子どもたちが地域を「学びの場」として体感し、創造力や主体性、他者への共感力を育むことを目的に、アートハイキングや、作品制作、宿泊体験などを組み合わせたプログラムを展開した。

今回は芸術祭の会期中に実施したことにより、アーティストによるアートプログラムと子どもたちの体験プログラムを接続する内容とした。ぼいんぼいん山アートトレイルでは、芸術祭参加アーティストによる作品解説とガイドを取り入れたアートトレイル体験を行い、子どもたちは自然の中で作品に出会いながら、地域の風景を新しい視点で捉える機会を得た。さらに、その案内役として地域団体である「抜里エコポリス」が参加し、山の地形や地域の暮らしについて話しながら案内を行い、アートと地域の知恵や歴史を楽しく体感する内容とした。

また、抜里エコポリスによる竹を使った遊びのワークショップでは、竹笛や水てっぽう、灯籠など、地域の大人たちが子どもの頃に行っていた遊びを再現しながら、子どもたちと共に制作と遊びを楽しむ時間が生まれた。これは単なる体験プログラムではなく、地域の暮らしの中で培われてきた知恵や文化を、実際の体験を通じて次世代へつなげる試みとなったと言える。地域の人々が自らの得意分野を活かして関わることで、無理なく自然な形で活動に参加でき、子どもたちにとっても生きた学びの場となった。

本プログラムでは、NPO 法人クロスメディアしまだが企画・運営を担い、地域団体である抜里エコポリスが知恵や経験を活かして関わるという役割分担が機能した。地域側が無理に新しい役割を担うのではなく、それぞれが持つ経験や得意を活かす形で関わることで、持続可能な協働のあり方が見えてきた点は大きな成果である。また、抜里地域はこれまでアートによる地域づくりに取り組んできた背景があり、地域住民が外部の活動や新しい取り組みを受け入れる土壌があることも、円滑な実施につながった。

保護者アンケートでは満足度が非常に高く、参加した子どもたちの多くが再参加を希望するなど、本プログラムが子どもたちにとって特別な体験となったことがうかがえる。里山の自然、地域の人々、そしてアートという要素が重なり合うことで、子どもたちは自然の中で自ら発見し、表現し、他者と関わる経験を得ることができた。

今回の冬の部は、これまでの実施経験を踏まえながら、芸術祭や地域活動と連動する形で内容を発展させた試みであり、地域資源を活かした新しい教育の可能性を示す機会となった。今後も地域の人々の知恵や文化を活かしながら、子どもたちと地域が共に育ち合う場として、本プログラムを継続的に展開していきたい。

<子ども×里山わくわく体験プログラム(冬の部) 保護者アンケート>

■参加者の声

・参加者学年

1年生…3名

2年生…1名

3年生…2名

4年生…3名

・参加者所在地

島田市…3名

焼津市…3名

静岡市…3名

Q このプログラムに参加しようと思った理由(複数回答可)

全体的には、「子どもの自立・成長につながると思った」「自然の中での体験をさせたかった」「1泊2日の宿泊体験をさせたかった」が多く、中でも「集落・地域の人との交流に興味があった」へ多くの保護者から回答いただいた。次いで「アート体験に魅力を感じた」「学校とは違う学びができると思った」「費用が手頃に感じた」「子ども本人の希望」への回答があった。

Q 今回のプログラムを何で知りましたか？

・チラシ

・SNS (Instagram・Facebook など)

・団体からの案内

Q プログラム全体の満足度

全員が「とても満足」の回答となった。

「ふつう」「やや不満」「不満」への回答はなかった。

Q 特に良かった内容(複数回答可)

■人気の高い項目

・アートハイキング

・竹工作(竹笛・水鉄砲・笹舟等)

・地域の方との交流

・里山での自由あそび

■その他の希望

・夕食づくり

・夜の遊び(トランプなど)

・宿泊体験(ヌクリハウス)

Q お子さまの様子や反応について教えてください(自由記述)

・行き渋りから、また行きたい！に変わりました。

・とても楽しかったようで、時間が足りなかったようでした。また行きたい！お友達になった子達にまた会いたい！と言っていました。

・行く前からとても楽しみにしており、直前に風邪で体調を崩して心配でしたが、本人は絶対行く、と言い続けて、回復したので良かったです。帰ってきたときも、次も行く！と言っていました。

・「楽しかったー！また行きたい！！」と帰ってきました。

山遊び、宿泊、竹工作…全てが楽しかったようです。

Q プログラムを通じて感じたお子さまの変化・成長について(自由記述)

・まだ分かりません。

・子供だけでお泊まりできたことにより、自分に自信をつけて帰ってきました！！

・「今までは楽しそう！やりたい！と思ったらやっちゃってたけど、今回は自分でいろんなことが判断できたよ。」

・「今までは決まった子とだけ仲良くなってたけど、今回は自分からいろんな子と仲良くなれたよ。」と話していました。

Q 今回の体験が以下の面に影響したと思いますか？(複数回答可)

「社交性」の点において「思う」と全員が回答。そのほか、「主体性」「創造性」「チャレンジ精神」が次いで多い回答となった。

Q 今回の体験が以下の面に影響したと思いますか？その他ありましたら、ご自由にご記入ください

・自信がついたこと、自分からお友達を作れたことでの主体性も成長したと思います！

Q 今回の「1泊2日」の長さはどう感じましたか？

「ちょうど良かった」「もっと長い方が良い(連泊したい)」が圧倒的に回答数が多く、「日帰りでもよい」または「わからない」については回答0件であった。

Q 今後参加したい日程スタイル(複数回答可)

「通い型(連続講座)」の回答は少なく、「1泊2日」「2泊3日」「3泊以上の宿泊型(キャンプ・合宿)」の希望が多かった。

Q 今回の参加費(5,000円)はどう感じましたか？

「ちょうど良い」への回答が最も多く、「とても安い」の回答もあった。

「高い」への選択はなかった。

Q 今後の適正価格帯(1泊2日の場合)

「4,000～5,000円」あるいは「5,000～7,000円」の意見もある中、「10,000円以上でも内容次第で参加したい。」という回答もあった。

Q 今後体験してみたい内容(複数回答可)

「里山のいきもの観察」「農作業・土に触れる体験」「集落の人と協働する体験」「夜の自然(星空・音・焚火)」への回答が多かった。

次いで「アート制作」「長期キャンプ・合宿」「自由なアート創作」「ホタル観賞」へ回答があった。

Q 送迎・安全管理・スタッフ対応など、気づいたことをお聞かせください

- ・集合に遅れてしまいましたが、大丈夫と言って待っていただけありがたかったです。
- ・LINE での写真や体験報告の共有、とっても嬉しく、楽しく拝見できました！ありがとうございます。
- ・帰りの到着予想を途中で入れていただけると良いな、と思いました。
- ・安心して預けられました。

Q スタッフ・運営チームへのメッセージがあれば、ぜひお寄せください

- ・とても楽しかったようです。ありがとうございました。
- ・また体験に参加させていただきたいです。貴重な体験、ありがとうございました！
- ・お世話になり、ありがとうございました！ぜひ今後とも続けてください。
- ・あたたかく見守ってくださり、安心しました。
- ・LINE でタイムリーに写真がたくさん送られてきたのが、他のキャンプではないことでとても良かったです。ありがとうございました。

<年間総括(完了報告)>

本事業では、NPOと地域コミュニティが連携し、地域の自然や文化、人の知恵を活かした子どもの体験型プログラムを実施することで、地域を「学びの場」として捉え直す取り組みを行った。秋の部および冬の部の実施を通じて、里山の自然、地域に暮らす人々の知恵、そしてアートの視点を組み合わせた体験プログラムを展開し、子どもたちが地域の中で主体的に学び、創造し、他者と関係を築く機会を創出することができた。

本事業の特徴は、地域コミュニティである「抜里エコポリス」とNPOがそれぞれの役割を活かして協働した点にある。抜里エコポリスは、竹を使った昔ながらの遊びなど、地域の暮らしの中で培われてきた知恵や技術を活かし、子どもたちと共に制作し遊ぶ体験を提供した。これらは地域の大人たちが子どもの頃に親しんできた遊びを再現したものであり、地域の生活文化や知恵を生きた形で次世代へ手渡す機会となった。地域の大人と子どもが同じ目線で関わりながら学び合う環境が生まれたことは、本事業の大きな成果である。

一方、NPOはプログラムの企画・設計や運営、アート思考を取り入れた体験づくりを担い、地域の知恵と現代的な学びの視点をつなぐ役割を果たした。地域コミュニティだけでは企画・運営が難しい体験型プログラムの設計や運営をNPOが担い、地域団体が地域の知恵や文化を活かして関わることで、双方の強みを活かした協働の形が実現した。地域側にとっては無理なく活動に参加できる仕組みとなり、NPOにとっては地域資源を活かした教育プログラムを実践する機会となった。このような役割分担により、地域コミュニティとNPOが相互に補完し合う連携モデルが形成された。

抜里地域はこれまでアートによる地域づくりに取り組んできた背景があり、地域住民が外部の活動や新しい取り組みに対して理解を持ち、受け入れやすい土壌が形成されている。そのため、地域住民、アーティスト、NPOが自然に関わり合いながら活動を進めることができた。芸術祭の会期中に実施したプログラムでは、アーティストによるぼいんぼいん山アートトレイルのガイドと地域住民による案内が重なり、自然・アート・地域文化が一体となった体験が実現した。子どもたちは自然の中で作品に出会い、地域の人々の話を聞きながら、地域の風景や文化を多面的に捉える機会を得ることができた。

参加した子どもたちは、里山の自然の中で遊び、地域の人々と交流しながら、創作活動や生活体験を通して主体的に行動する姿を見せていた。保護者からも、帰宅後に体験した出来事や地域で出会った人のことを嬉しそうに語る様子が見られたとの声が寄せられており、地域の人々と過ごす時間が子どもたちにとって印象深い経験となっていることがうかがえる。こうした体験は、子どもたちの主体性や社会性を育むとともに、地域の中で多様な大人と出会うことの大切さを実感する機会となっていた。

一方で、今後の継続に向けていくつかの課題も見えてきた。継続的な実施に向けた運営体制の整備、地域住民の負担を調整しながら無理なく関われる仕組みづくり、また参加機会を広げるための広報方法や受け入れ体制の充実などが今後の課題として挙げられる。今後は地域の関係者と協力しながら、持続可能な形で活動を続けていくための体制づくりを進めていく必要がある。

横展開モデルの確立に向けて

本事業を通じて見えてきた大きな可能性の一つは、「地域の得意を教育に変える」という考え方である。地域にはそれぞれ固有の自然環境や文化、暮らしの知恵があり、長い時間の中で地域の人々によって培われてきた貴重な資源である。抜里地域に暮らす人々が子どもの頃から親しんできた竹遊びや里山での遊びを、地域団体である抜里エコポリスが子どもたちに伝える形で実施した。これは単なる体験活動ではなく、地域の生活文化や知恵を生きた形で次世代へ手渡す学びの場となった。

地域の人々が自らの経験や得意分野を活かして子どもたちと関わることは、地域に無理のない形で教育的な活動を生み出すことにつながる。地域の人々が新しい役割を担うというよりも、自分たちがこれまで当たり前に行ってきた暮らしや遊びを共有することで、自然な形で子どもたちとの学びの関係が生まれる点にこのモデルの特徴がある。

この考え方は、特定の地域に限られたものではなく、他地域にも応用できる可能性を持っている。例えば、漁村であれば漁師が持つ海の知識や漁の技術、海の生き物についての知恵が学びの素材となり、子どもたちは海と共に生きる暮らしを体験することができる。山村では山歩きや山の遊び、薪づくりや山の恵みを活かした生活文化が学びの内容となり、自然との関係を体感する教育につながる。また農村では農作業や食づくりを通じて、食と土地の関係を学ぶことができる。さらに町場では商店の仕事や地域の商いの文化を通じて、人と人との関係の中で成り立つ社会の仕組みを学ぶことも可能である。

それぞれの地域が持つ自然環境や文化、産業の特徴を活かすことで、地域ごとに異なる教育の形が生まれる。重要なのは、地域コミュニティが持つ知恵や文化を教育資源として捉え、それを NPO などの団体がプログラムとして編集・運営することである。地域側は自らの得意分野を活かして関わり、NPO は全体の設計や運営、外部との連携を担うことで、双方にとって無理のない協働の仕組みが成立する。こうした「地域の得意を教育に変える」取り組みの一つの実践例であり、地域資源を活かした子どもの学びの場づくりのモデルとして整理・共有することで、他地域への横展開が期待できる。

本事業を通じて、地域の自然や文化、暮らしの知恵を活かした学びの場が、子どもたちの成長だけでなく、地域コミュニティの新たな関係づくりにもつながる可能性が明らかになった。地域の大人たちが自らの経験や得意を活かして子どもたちと関わることで、世代を超えた交流が生まれ、地域の文化や記憶が次の世代へと手渡されていく。その過程の中で、地域に暮らす人々自身も、自分たちの暮らしや地域資源の価値を改めて見つめ直す機会となっていた。

今後も地域の人々と協働しながら、地域資源を活かした体験型プログラムの継続と発展を図り、子どもたちと地域が共に育ち合う関係を育んでいきたい。そして、本事業で得られた知見を整理・共有することで、地域の中に多様な学びの場が広がり、それぞれの地域の特徴を活かした新しい教育の形が生まれていくことを目指していきたいと考える。